

アムス校友会通信

発行：アムス柔道整復師養成学院 校友会

Vol. 8
2013. 3

目次

ご挨拶	1
閉校記念パーティー(仮)開催しますよ!	1
イベント報告(新年互礼会)	2
イベント報告(勉強会「開業・国家試験経験談講座」)	3
「開業・国家試験経験談講座」で 伝えられなかったこと	3・4
柔整学院 常勤先生へのインタビュー	5・6
勉強会報告(中西塾! 外傷の評価法・処置法(基礎編))	6
アムス柔整学院の今	6

ご挨拶

アムス校友会広報誌vol.8をお届けします。

学院は残念ながら最後の1年になりますが、校友会も今後についての意見交換を重ねています。この1年で見定めなければならない事項は数多くあります。現実的に役員に何ができるのかを軸に、いずれご報告できるように検討を重ねていきたいと思います。

そのような状況ではありますが、平成25年度の活動につきましては勉強会は昨年と同等の規模で、イベントに関しても学院の存在する間でなければ実施できないようなイベントも企画中です。また詳細は今後発表させていただきますが、「参加」という形でのご協力をよろしくお願ひいたします。

また11期生の皆さん「卒業生」としての第一歩を踏み出されました。おめでとうございます。

まさに今皆さん「医療」という世界の扉を開けようとしています。在学中は日々の勉強で大変だったと思いますが、資格を取ったばかりの皆さんだからこそ、「医療とは何か?」「医療人としてどのような心構えで臨まなければならぬか?」この答えを見つけるべく、常に心に留めて研鑽に励んで欲しいと思います。校友会には既に1000名を超す先輩方がいます。在学中は意識するのが難しかったと思うますが、校友会を通じてより多くの先輩方と交流し、研鑽の一助としてもらえば会を代表する者として嬉しいことはありません。

ともに互いを高めていきましょう。

会長 山脇功治

閉校記念パーティー(仮) 開催しますよ! 平成26年3月23日(日)



次年度は、学院最後の1年となります。

例年1月には「新年互礼会」を開催してまいりましたが、来年度は少し時期を動かして「アムス閉校記念パーティー(仮)」として過去にお世話になった先生方、校友会勉強会講師、学院や城見会の皆様にも声をかけさせていただき、盛大なパーティーを開催したいと考えています。

具体的な内容はこれから検討に入りますが、「平成26年3月23日(日)」のスケジュールを空けておいてください!

※詳細は今後の郵送物でご案内します。校友会ブログでも情報発信します。

イベント報告

新年互礼会・勉強会 平成25年1月13日（日）シティプラザ大阪にて

新年互礼会

平成25年が始まりました。昨年はオリンピックが開催され、沢山の感動があった一年だったと思います。今年はヘビ年です。ヘビは神的な生き物だと言われますし、お金が貯まるという縁起のいいものとも言われます。また蛇とすることわざだけでも10種類以上はあるのでまたアムスのブログを見るときにでもYahooで蛇のことわざを見てください。きっと何かいい雑学になると思いますよ。

さて、アムス校友会の名物、「新年互礼会」が1月13日（日）に開催され、今年もシティプラザ大阪にて112名もの校友会の仲間が集まり楽しい時間が過ごすことができました。

司会進行をしてくださったのは飯沼先生（10期生）。今まででは米田先生（4期生）が司会進行の定番スタッフでしたが、今回から新しいメンバーが担当していただいたことで新鮮な感じがしました。乾杯が始まると久しぶりに会うメンバーと楽しい会話が始まり、お世話になった先生にお酒を注ぎに行かれる会員も目立ちました。この行動は定番ですが、やはりする方、される方ともに嬉しいものですね。



後半には恒例のbingo大会が開催されました。今年はいつもと違い「福袋形式」での景品となり最後まで何が当たったのかわからない形になっており、これもまた新鮮なものでした。

そして、締めの挨拶にて、校友会会长の山脇功治先生（1期生）よりお言葉を頂きました。山脇会長は「自分たちが卒業した学校が無くなることは本当に悔しい。アムス校友会を通じて、このような沢山の仲間が出来たこと誇りに思う。なんとかアムス校友会を残していくたい」と熱くみんなに声をかけられ、会員からは沢山の拍手が上がりました。みんな校友会が好きなのだと実感した場面でした。

アムスは12期生の卒業にて閉校になるのが決まっています。閉校まで残り1年になりますが、校友会のイベントはこれからも続けていきたいのは皆同じだと思います。「新年互礼会に参加するのは今回が初めてです」と言う方も何名かおられましたが、今回のイベントを通じて一人またひとりと校友会に関心を持って下さる会員が増えることを期待したいです。

最後になりますが、卒業生はより深い治療知識の向上、また経営面での繁栄を。在校生には、より一層学業に励んでいただき、沢山の交友会員の皆さんをご活躍されることをご期待申し上げます。

大島先生の「失敗は失敗のままにしておくから失敗である。成功するまで続けて成功になる」という言葉。私はこれを糧に今年励んでいきたいと思います。

広報委員 前川和範（4期生）



勉強会「開業・国家試験経験談講座」

毎年、新年互礼会の前に開催される勉強会もその形式を少しずつ変えながら専門家の方からのお話を聞いていたものが、卒業生が10期もいるとなると、卒業生が講師を担当する、こんなことも出来るまでになりました。これもひとえに学院がそれだけ続き、卒業生が校友を大事にしてきたからこそ成せることかもしれません。



今回勉強会を開催するにあたり、山脇功治先生、木下昌子先生、そして私の3名の先生が講師としてお話をさせていただきました。開業を目前にし、どの様な方法があるのか？国家試験を目前にどの様なモチベーションを持ち挑むのか？また、今後、柔道整復師としてどうあるべきなのか？そんな疑問符が飛び交う方たちに向け、卒業生が体験を踏まえ講義をいたしました。

アムスを卒業して5年の私が講義をさせていただいたのは、もうすぐ2年になる開業に関する経験です。時間の都合もあり、かなり割愛させていただきましたが、開業するまでの道筋を事前に頂いたアンケートにお答えしながらお話をさせていただきました。その、詳しい内容は後ほど…

開業の経緯・場所の選び方・お金、どれも開業を行うにあたり大事なことです。それらを実際に使用した数字を元にお話をさせていただきました。

次に木下先生より国家試験の経験談をお話いただきました。一番悩む苦手な科目への取り組み方、国家試験前の勉強の仕方、前日までの過ごし方など経験を交えながらお話をいただきました。3年生は先日国家試験を終えたばかりですが大いに役立てていただけたのではなかっただでしょうか？柔道整復師になった者は誰もが皆通った道です。私も話を伺いながら国家試験前の自分を思い出していました。

最後に、山脇先生に国家試験、開業、臨床への取り組みをお話いただきました。開業については、私のような数字の話ではなく、最も大事な「心」の部分でお話をいただきました。臨床は卒業後10年の臨床経験を元にお話があり、卒業生、在校生関係なく気付かされることがたくさんあったと思います。治療と経営はシーソーゲームの様に相反する性質がある中で、どのように医療と向き合っていきながら両立を目指すか、経営者になった私にはとても重い一言になりました。治療・治癒以外を疎かにすれば当然経営は成り立たず、経営だけに捕らわれ過ぎれば人を治すそのこと自体が疎かになりかねないことは医療人として永遠の課題かもしれません。

広報委員長 岡村優輝（6期生）

「開業・国家試験経験談講座」で伝えられなかったこと…

前述の勉強会報告の続きになります。講義中はスクリーンを使って私の開業時の金額なども見ていただきながら行いました。今回、金額は掲載できませんが、聴講していただいた方々には少し開業の時の資金繰りがおわかりいただけたかと思います。講習前にアンケートを頂戴し、それにお答えしていく形式でしたので、1月の講義でお伝えしきれなかったこと、アンケートでご質問いただいたことへの返答を掲載をさせていただきます。

1：経緯

● 整骨院勤務から開業決意に至った理由

結論からいえば「正しく整骨院というものを利用してほしい」、この想いからでした。私の勤務先では、手技療法を軸に治療していたこともあったのかもしれません、「揉んでもらっている」という感覚で治療に来られているケースが多く見受けられ、私は柔道整復師としてこれでいいのかと疑問に思いながら過ごしていました。ずっと考えているうちに、自分自身が勘違いさせている。また、そんな治療方法が他でも多かったのではないか？多い中で説明が不足し、誤解を招きかねないことになっているのではないか？と思うようになりました。それらを完全に打破していくとなって開業を実行するに至りました。

● 開業決意から、実際の開業までの流れ（決意から何ヶ月後に何をしたか）

決意後、さっそく困りました。どうやるの？何からすればいいの？お金かかるよね？そこで登場したのが、

アムス校友会の先生方や応援団の存在です。実は何から始めればいいのかは応援団のHPに書いてあります。

私は思い立ったらすぐ行動に移す性格なので、とりあえず開業資金の調達、場所の確保から取りかかりました。その上で、実現直前ぐらいのタイミングで勤務先に退職願いを出しました。

● 準備にあたって業者はどうやって選んだか（各職種別）

銀行は「当たって砕けろ」でした。社会勉強だと思い、周辺の銀行はすべて行きました。年齢も年齢でしたから、簡単には貸してもらえませんでした。結局この部分が一番時間がかかりました。

医療器具やその他の手続きは応援団の先生方や業者の方にお力添えしていただきました。

2：場所

- 整骨院の場所を決める優先順位は何であったか、実際開業してみてその決め手は、思っていたとおりであったか

当然場所が開業の大事な要素ですが、場所に関して私が最優先したのは「周囲にある同業やその他の医院に迷惑をかけないようにする」という点でした。いくら奇麗事を言っても開業はビジネスです。お金を稼ぎ、社会に貢献することは社会的使命ですから避けることはできません。当然近隣の患者さんを奪い、マーケットを広げていくことは必然的に起きてしまうので、できるだけそれが起きないような場所を探しました。私の場合は人が通る「道」を共有しない場所に決めました。

- 場所を選ぶにあたって期間はどれぐらい、何件ぐらい物件を見たか

僕は実際に実は探していません。「？」と思われるかもしれませんのが事実です。たまたま父が散歩している道に「売り物件」とあり。場所がよかつたので即決しました。これは無茶苦茶で参考にならないと思いますが、実際にも3～4件で止めるべきだと思います。見過ぎては逆に迷いが強くなり結局決めなくなると思います。

3：費用

- ざっくりとした費用（「総額」と「言える部分」の金額）

2,000万円くらいです。私は建物を購入してからリフォームをしたので初期費用にお金が要りました。しかし、逆に月々の経費は削減ができるので、資金繰りはこちらのほうが楽かもしれません。賃貸は賃料だけでも10万～20万になることが多いので（場所によりますが）、必要経費の削減には向かないと思います。しかし場所を簡単に変えることができ、自分に合う場所を探ることもできるメリットがあります。

- 費用の準備をどうしたか（言える範囲で）

前述のとおり、年齢がネックでした。お金を借りることは本当に大変だということを実感しましたが、無事に町銀に借りることができました。国金、農協や都市銀行にも借りることができます。あと、少額であれば商工会議所という地方の中小企業が運営している場所があり、こちらでも開業資金を借りることができます。しかし、大事なのは借りる方法だと思います。

- スタート時のスタッフ構成とその理由

開業時の施術方法やベットの数といった所謂、ハコの大きさによっても異なりますが、私は一人でベットが4床、うち一つはアイシングや整復専用で後は、手が空かなくなってくる位に忙しくなれば受付スタッフを雇い入れる。という考えでした。

- 保険請求はどの団体に加盟しているか（もしくは個人か）、それを選んだ理由は？

うちでは現在、社団法人京都府柔道整復師会に所属しています。選んだ理由は情報収集が主な目的です。会費は私にとっては高くかんじましたが、レセプトの審査もして頂いていたり、同じ支部の先生ともお知り合いになることができるで加盟しました。特に必要性が感じられなければ、加入しなくてもよいとは思います。

4：その他

- 業者以外でどのような人にどんな相談をしたか

やっぱり先輩ですよね！アムスという母校の先輩が一番話がしやすく、又色々なアドバイスを頂きました。

- 一番苦労した点はどういった点か

資金調達もそうでしたが、実はリフォームは私自身が設計をしました。決めごとも多く大変でしたが、思い通りで今は満足しています。

- こうしておけば良かった、と思う点

講義の中では、「こうしておけば…」ということを考えても仕方がないので、前を見てこれから「どうしたいのか」を考えたほうがいいのではないでしょうか？ということを言わせていただきました。

- どうやって院の存在を浸透させていったか

自分の治療が常にベストか、と悩むことも多いですが、少なくとも治せば人々に「あそこは治してくれる」と信頼してもらえるだろうということで、特別な行動は殆どていませんが、地図のスポンサーや地域の回覧板に掲載をしました。お金もかからず、1年間載せてくれるでの広告費を計算していなかつた私にはもってこいでしたね。

5：講義を終えて

私が、開業前に「自分が未熟なのに開業してどうなんでしょう」と、諸先生方に相談をさせて頂いたことがあります。その時にある先輩より「そんなことは、どこまでいっても付きまとうから一緒だ」とのアドバイスを頂いたことがあります。

この業界に限らず、仕事に終わりはなく、その都度考えなければならないことは当然多いし、人生そのものが生涯学習なんだ、ということに改めて気がつきました。開業というチャンスに巡り会えたときは、やはり逃すべきではないんだろうなというのが私の思うところです。社会貢献することが企業の存在意義であり、治療することは自分の柔道整復師としての存在意義であると信じてからの治療に携わっていきたいと考えています。

今回、自分の開業談をお話させていただいたことで初心に振り返ることがとても多くなりました。まだまだ経験不足の私ですが、講義を受けてくださった皆さん、この記事を読んでいただいた皆さんの今後の糧として少しでもお役にたてていたなら幸いです。

広報委員長 6期生 岡村 優輝

柔整学院 常勤先生へのインタビュー Part 1

現在も学院で常勤教員として指導に携わってくださっている常勤の先生方に、着任からを振り返りつつ校友会会員の皆さんにメッセージを寄せていただきました。今回はその前編となります。続きはvol.9にて。

**質
問**

- ① 学院に初めて着任した時の印象を教えて下さい
- ② アムス教員生活で一番印象に残っているのは？
- ③ 授業を教えていく中で何が難しかったですか？
- ④ 授業で一番気を使ったところはどこでしょうか？
- ⑤ 授業を通じて学生たちに伝えたかったことは何ですか？
- ⑥ 印象深かった学生にまつわる話を教えて下さい
- ⑦ 卒業生（11期生まで）に伝えたいことがありますか
- ⑧ 在校生（12期生）に伝えたいことがありますか

五代 哲郎 教務主任

① 私は、平成16年に学生としてアムスに御世話になり、平成19年に教員助手として入職しました。教えていただいた先生方と一緒に仕事することで、うれしさと緊張感でいっぱいだったように思います。

② 授業中、生徒と口喧嘩した事を思い出します。そのときは嫌な気分でしたが、今では非常に良い思い出となっています。

③ 生徒に授業内容をしっかりと伝えていく事の難しさを痛感しました。100で伝えても、30とか20しか伝わっていない、生徒によってはゼロという時もありました。

④ 退屈な授業にならないように、授業の進め方に気を遣いました。遅ければ生徒が退屈してしまうし、早すぎれば、生徒が授業についてこられない場合があります。

⑤ 「仕事が忙しい」は言い訳にならないと言う事です。授業をしっかり聞いて、空き時間で復習するスタイルを身に付ければ、そんなに苦労することなく国家試験を合格できます。我々は柔道整復師として一生勉強しなければなりません、「時間はうまく作る、そしてうまく使う。」これが大事です。

⑥ 一番印象に残っている学生は、学力がなかなか伸びず、卒業再試験を受験するぐらい苦労していた生徒です。その生徒は、最後まであきらめずに必死に努力していました。国家試験で200点を超える結果が出た事には、非常にビックリするとともに感動しました。最後まであきらめずに勉強を続ける姿勢が大事だと思いました。

⑦ 卒業おめでとう。国家試験の手ごたえ、どうだったですか？ これから人生いろいろありますが、自分の目標をしっかりと達成できるよう祈っています。

⑧ さあ、アムスのトリをつとめる皆さん、国家試験合格100パーセントを目指して努力しましょう。



芦澤 徹生 先生

① ② アムスに着任する時まで、「柔整」という職業も知らなくて恥ずかしかったこと

③ ④ 医学部の学生を相手に教えているという感覚で授業を進めて、柔整の授業では本来使わない医学専門用語を用いてしまうことがしばしばあったこと。

⑤ 夜間部として一切居眠りすることもなく授業を受け、授業終了後から翌朝まで工場勤務、3~4時間の睡眠をとて学校が始まるまで整骨院に勤務して頑張っていた妻子持ちの学生に、尊敬の念を禁じえなかったこと。

⑥ ⑦ ⑧ 「柔整師」とか「医療人」の前に、「社会人」、とりわけ「人間」として、既存の制度・社会問題・公害・薬害などに常に疑問を持ってほしい。"Ich denke, also bin ich (我思う、ゆえに我あり)" という言葉を贈りたいと思います。アムスでの10年間は素晴らしい人生の一時期を送らせてもらいました。ありがとう。



高橋 和司 先生

① 私は、この学校で教員講習会を受けました。その年度の教員講習会大阪会場は、主管校が母校である平成医療学園、協力校が行岡整復専門学校そしてアムス柔道整復師養成学院でした。

6月から11月の毎週土日祝228時間に亘る講習でしたが、中でもアムスの講師陣による講義内容のレベルの高さに感銘を受け、「資格を取得したらこの学校で働きたい」と秘かに画策しておりました…年度末ぎりぎりに翌年度のオファーがありました。それから、北田先生にご協力いただき急ピッチで柔道整復理論・軟損の講義資料をまとめ上げました。

講義初日、事務方にも無理言って2時間前から準備し、ランスルーまでさせて頂きました。

準備期間まで教務をあげてご支援いただき…秘かに『自信』をもって（期待と不安に押し潰されそうで）挑みました。講義後、自信が『確信』に変わった事は言うまでもありません！

② 特に非常勤時代の事ですが…毎回、講義内容を振り返り『ひとり反省会』を開催していました。

作成した講義資料や試験問題に和泉先生チェックを頂き（コレが手厳しい有難い）、更に「学生さんからこんな質問を受けました」的な意見交換によって、講義の内容を充実させた事ですね。

予想を覆す学生さんの手厳しい『質問』が“好敵手”となり、更に『講義を面白くする工夫』にてパワーアップ出来たと思います。



高橋 和司

先生(続き)

③ ひとクラス30人集まると、学力レベルに差があって、何処に焦点を合わせるのか…という点ですね。私は『中の下』くらいに合わせているつもりです。自分自身で学習する習慣が身に付いている学生さんは資料を渡すだけで何とでも成りますが、教えて貰わないと習得に結びつかない学生さんに、学ぶことの楽しさを伝えたい！解り易く、興味を持ってもらえるような講義展開を考えて行く事に苦労しました。私の講義はプレゼンソフトを使用していますが『仕込み』に手間暇が掛かりました。「明るく・楽しく・激しく」を、熱意をもって伝えられたのでは無いでしょうか。

④ 講義はプレゼンソフトによって進行されていくので、板書に充てる時間が少なくなっていく傾向がありました。一部の学生からは大絶賛を受けましたが、一部からはブーイングがきました。講義の形式を変えようか…画策した時期もありましたが、何とか「書かない」事を補う手立ては無いかと思案した結果、サブノート形式の「課題」で半強制的に復習をさせました。提出後に添削も頑張りました！中には学友の丸写しで凌いだ学生さんも居られましたが…キッチリ仕上げた学生さんはかなりの手応えを感じてくれている事思います。仕事に追われる学生さんには嫌われてしましましたが…。

→高橋先生がこのあとの質問にもアツく答えてくださいましたが、続きはvol.9で！

勉強会報告「中西塾!外傷の評価法・処置法(基礎編)」

当日、朝早くにも関わらず沢山の先生方が参加されました。



今回は「外傷の評価法・処置法(基礎編)」ということで、以前学院でも教鞭をとっていた中西先生に講義をしていただきました。講義前半は「捻挫とは」について柔道整復師としてのとらえ方・一般社会のとらえ方・保険請求についてなどディスカッション形式で話していただきました。

柔道整復師として様々な考え方や治療方法はあるものの共通して言える事は多くは「〇〇捻挫」という負傷名を用いて保険申請をしている事です。申請するにあたり大事なキーワードなどを教えてもらいました。

後半は実技で膝関節を例にして、運動理論や評価法を学びました。

ラックマンテストって覚えていますか？当然皆さん学校で習っているし、普段の施術の中でも行っていると思います。でも、パートナーと実際にしてみると正確に操作や評価が出来ていなかった自分がいました…恥ずかしながら

講義は時間を大幅に過ぎる程熱い答弁をしていただき中西先生ありがとうございました。今回の講義を受け、日頃自分が行っている施術の再確認や足りなかった部分を補う事が出来ました。今回は基礎編という事なので来季の応用編が楽しみです。

企画委員長 木村 壮臣（4期生）

アムス学院の今

このコーナーでは、卒業生の皆さんに普段お伝えできない学院の「今」についてご紹介したいと思います。



この広報誌を卒業生の皆さんのが手にされる頃には、国家試験・卒業式という3月の2大行事が終わって学院も少し落ち着いた状況だと思います。

3年生は3月3日（日）の国家試験に向けて、直前まで頑張っていましたから、一人でも多くの学生が笑顔で27日（水）の合格発表を迎えるよう願っています。また、既卒の方も38名受験されていますので、こちらは今年こそいい報告をいただけるのを待ちたいと思います。

卒業式は3月10日（日）ホテルニューオータニ大阪にて執り行います。3年間頑張った75名のこれから活躍を期待しつつ、晴れやかな気持ちで新しいステップを踏み出すに相応しい式にできるよう準備を進めています。

そして4月からは残る38名が3年生を迎えます。以前は昼夜360名の学生さんが通っていましたが、昨年113名・今年38名と学生数が少なくなっていく中で、一抹の寂しさは感じますが、最後の1年もこれまでと変わることなく「全員卒業・国家試験合格」に向けて学習環境を整えていきたい、と教職員一同気持ちを引き締めています。

人数が少ないということは、それだけ学生一人ひとりに目を向けやすくなるのですから、アムス柔整学院の「良さ」である教職員と学生の距離の近さを最大限に活かして、有終の美を飾ることが出来るよう頑張ります！ [校友会事務局担当 豊田]